



### 第二期「地方創生」への岩沼市の方向性

布田 一民



**問** 第一期の創生総合戦略の検証だが、PDCAサイクル検討委員会での「施策の整理と効果の検証」を1つにまとめて伺う。

**市長** 5年目ということ、次に向けて施策を展開していく必要があると思います。

**問** いわぬま未来構想は、地方創生関連事業と一般事業で「実施計画」が策定されている。検討委員会での成果はどうだったのか。

**市長** 国の方針に基づいて実施計画が進んだと、私は思います。

**問** 提案だが、国より先駆けて各自治体が行っている「地方創生事業」の成果を検証し、市で生かしていくのか。また、取り入れられないのか。人口減少による消滅可能性都市としての危機感を払拭するためにも行うべきでないか。

**市長** 厳しい取組とありますが、私は、そのつもりで行っています。

### 地方創生に新しい戦略を

**問** 教育長から6月定例会で回答があった「仮想空間」と「現実空間」を高度に融合させたソサエテ

ィー5・0だが、二期の地方創生に立案が必要であると言われている。学校教育における新しい技術手法の社会変化の取組をどのように進めていくのか見解を伺う。

**教育長** 学校では、授業の改善を行っています。ICT関係についても子どもたちと教職員、また、校長も含めて研修会を行っています。

**問** 市長も回答しているが、ソサエティ5・0や「物と物・物と人」最近「物とこと」と言われるIoTやAIなどの新しい技術手法の取組をどのように行うのか。第二期での政策立案の見解を伺う。

**市長** なかなか、難しい分野です。第一期の評価をし、12月の国の地方創生の戦略を見ながら次に進んでいきたいと考えます。

**問** パソコンやインターネットの情報技術を利用したり、使いこなせない人、そうでない人、また、貧困や社会的格差などのデジタルデバイスに配慮が必要でないか。

**市長** 本来、国がなすべき責任だと今のお話を聞いています。



### RPA導入による市役所業務の効率化

菊地 忍



**問** 「RPA」とは、定型的なパソコン操作をロボットが自動化し事務処理業務の効率を飛躍的に向上させる技術をいう。

**製品**の製造・組立・運搬などブルーカラー業務をサポートする「産業用ロボット」に対し、RPAは、データ入力や情報チェックなどのホワイトカラー業務をサポートするものである。技術革新が生産性の向上をもたらす代表的な例として、世界で今最も注目されているテクノロジの1つである。

ここ数年、RPAの導入が急速に進んでおり、民間企業はもとより、ことしに入って自治体への導入事例が増えている。

**問** 相対的に事務処理業務が多いとされる自治体は、RPA導入に最も効果が実証される場であり、人口減少や生産性向上という社会課題の解決策としてRPAを導入し、働き方改革をリードしていくことも必要ではないか。見解を伺う。

**総務部長** 導入に当たっては、業務の効率化を進める上で大きなメリットがあると考えます、住民の

利便性の向上も含め、この新しい技術を捉えていかなければならないと考えます。

### 住民サービスの向上を

**問** 導入することで、職員は本来担うべき住民とのコミュニケーションに力を注げることから、住民サービスの向上につながると考えるが、見解を伺う。

**総務部長** 職員が市民の皆様と向かい合う時間ができるだけではなく、政策的な協議や対外的な対応に取り組む時間が生まれ、間接的なサービス向上も期待できるのではないかと思います。

**問** 市長の見解を伺う。

**市長** 我々の本来の仕事は、事務処理ではなく、市民との意思疎通を良くし課題解決に取り組むこと、その時間が本来に必要なわけで、このRPAの導入を進める必要があると思います。我々も改革に取り組んでいきます。

◎その他の一般質問  
・教育等のICT化の推進